

連続観測からわかる活断層の変動の特徴について

Characteristics of active faults obtained from continuous observation

石井 紘 [1]; 浅井 康広 [1]; 青木 治三 [1]; 山内 常生 [2]

Hiroshi Ishii[1]; Yasuhiro Asai[1]; Harumi Aoki[1]; tsuneo yamauchi[2]

[1] 東濃地震科研; [2] 名大・環境・地震火山・防災研究センター

[1] TRIES; [2] RCSVDM

断層は通常どのように振舞っているのかあるいは静止しているのかは明らかになっていない。断層近傍における地球物理学的現象・変動を調べることは応力集中、地震発生、地震予知の観点からも重要である。我々は跡津川断層系の茂住・祐延断層近傍や岐阜県瑞浪市における NNW 断層近傍において歪や傾斜の連続観測を実施している。それによると断層近傍における歪変動はテクトニックな場の変動や外力による影響を反映するのではなく、それらの作用により断層固有の振る舞いを反映することが明らかになってきた (Ishii et. al., 2007)。今回は新しいデータを加えて断層の振る舞いについて検討・考察する。